

114
A2527

建
三百六拾六號

左院

記録用紙



明治八年二月七日

参議

左方

議長 佐木

内務課

可
黒否

寺島宗則

左方 岩村

大正十一年四月
天隈侯邸寄贈

細川 根
太田 根

別紙本院ニ等書記生富島永倉建言之趣遂
審議候處其所論之意見ニシテ凡ソ工業ヲ
振起シ其運用ヲ盛大ニシ而シテ人民ノ便益ヲ
増シ國家之利益ヲ起スハ專賣免許ノ方法ヲ
没クルニ若カサルハ今更辯論ヲ俟ス昨七年
五月中專賣規則并ニ傳習專賣規則共取

已承



調及上申候趣モ有之御採用相成能方可然
尤御採用相成候リ、昨年取調候別紙規則
之通御火定相成候テ可然ト存候因テ達
言書、別冊書類相副此如仰意裁候也

大正十一年四月
大隈侯御寄贈

專賣免許ノ義先般康兒島縣士族水紺青發明ニ付專賣
出願以來御詮議ノ次第有之當分御見合相成行政上ノ御都
合如何ハ窺知ルヘカラスト雖モ^抑專賣免許ノ事シル百エヲ振
興シ世ノ便益ヲナスノ一大良法ニシテ歐米諸州ニ於テ此法一度
行ハレシヨリ人智益進ニ工業愈盛ニシテ國家人世ノ洪益由テ
以テ生ス其効迹顕然タルハ固ヨリ論ヲ待タサルナリ今也本邦人
民開化日淺ク學識智巧未タ全ク進マスト云フト雖モ或ハ例
苦困勉ノ力功ニ依リ要用便益ノ物品ヲ發明製出スルモノナ
キニテラス然ルニ所云專賣ノ權ナク又專賣ノ利ナキヲ以テ徒
ラニ資力ヲ耗損シ其事業ヲ遂成スル能ハス是レ唯其久ノ

為メニ惜ム非ス則チ國家ノ為メニ之ヲ遺憾ト謂ハサルヘケン
ヤ冀クハ更ニ御詮議ノ上專賣特許法御施行アラントラ
欲ス但此法御施行ニ付テハ測量術ヲ始メ舎密分析等諸
術及ヒ附屬器械ニ至ル迄充分具備セザレハ發明品ノ試驗鑒
定等容易ニ手ヲ下タシ難ク若シ之ヲ容易ニスル時ハ輕進校
黠ノ者共唯專賣ノ利ニ競特シ謾リニ免許ヲ得テコレカ為メ
工業商事ヲ束縛シ卻テ物産ノ増殖ヲ妨クルノ懸念アルニ
似タリ然リト雖モ專賣ノ權利ハ自由之ヲ賣買シテ束縛ノ
弊ヲ生スヘキモノニ非ス又試驗鑒定ノ事ノ如キモ時勢ノ適度
ヲ考レハ俄ニ歐米諸州盛大ノ施設コレナクトモ先以適宜簡

略ノ方法規則ヲ立テ

工部省之ヲ管掌シ
實際差支ナカルヘシ

向來日用便益ノ物品ヲ

發明製造スル者及ヒ外國製ノ物品ヲ傳習製出スル者ニハ

内地限リ專賣ヲ差許サレ

特許年程ハ別冊譯文中換據
免許ノ余ニヨリ之ヲ定ムヘシ

各人民ヲ

シテ發明ノ名譽ト專賣ノ權利ノ最モ貴重スヘキノ理ヲ知ラ

シテ而テ坐衣食工業ヲ惰リ外輸ノ物品ヲ仰テ自カラ足ル

トスルノ廉恥タルヲ知ラシムルハ亦愛民ノ一助ナラスヤ蓋シ近今

奎運日月ニ隆盛新書争出人世ノ便益ヲナス所以ノモノハ佗

ナシ其專賣ヲ許シテ誘掖激勵スレハナリ而テ其國益タル

必シモ書籍ニ止ラヌ凡百物品ト雖モ其果シテ國益タルニ

於テハ書籍ト何ソ異ラン且又此法ニル當今貫屬士族ノ輩

還祿就産ノ時ニ方テハ最是便互ト謂フヘシ切ニ望ム速ニ此
法ヲ御施行相成漸ク富國ノ基本御成立アラシクテ則チ
判冊譯文ヲ副、此段建言仕候忌惶頓首

明治八年第一月

左院筆書記生富島永蒼

本院

御中

大正十一年四月
限侯寄郵寄贈

左院御雇弗爾伯絨口譯

左院十等出仕富島永蒼筆受

○

米人チヨシ、ジ、ウエリス氏著「エバリン」ノシロオウシロ

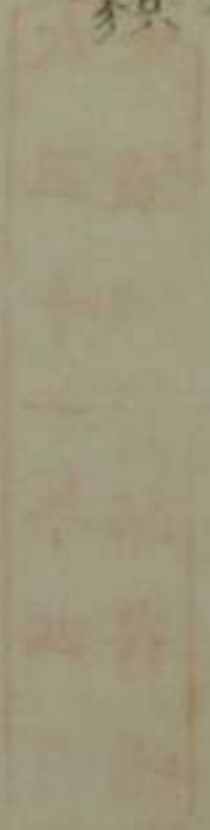
一エ、名鈔譯

合衆國ニ於テ新發明物品ノ專賣ヲ免許スルハ工藝
ヲ勸奨ムル為ニ謀リシモノニテ國內ノ高買ヲ
盛大ニシ又人ノ切勞ニ酬ユルヲ以テ目的トス隨
テ合衆國製造物ノ新發明漸次増加シ人ノ事業モ亦

夕頗レ進歩ニ近年ニ至リテハ專賣免許ヲ受ケタ
 者ノ利得且ツ國民ノ利益トナル殊ニ多シトス
 而テ其免許スヘキ物品ノ種類概略左ノ如シ
 一新器械及ニ新道具類ノ發明
 弗尔伯義氏曰假令ハ蒸氣機關
 及ニ鏡器ノ類ヲ指ス
 一古キ器械ニ付テ其器械ノ利用ヲ一層增加スル

發明

同氏曰假令ハ人力車ニ兩履ヲ
 付ルヲ工夫セシ類ニ指ス
 一在来ノ品物ノ裝飾或ハ模様ヲナスノ發明
 同氏曰假令ハ唐紙ノ新規模樣
 或ハ飯臺ノ彫物ヲ工夫セシ類



一古キ製造物ヲ更ニ便利ニ製造スル發明其旨
 同氏曰假令ハ蠟燭ノ鑄形ヲ始メ
 一在来ノ製造物ヲ別段最上品ニスル發明
 同氏曰假令ハ羅紗等ノ織出
 一物品ヲ成形ニ付テハ發明
 同氏曰假令ハ形ヲ列樣
 一新規製藥其他混合物ノ發明
 右ノ外總テ人民ノ便益ヲナシ且ツ人カヲ省ク
 一キモノハ皆專賣ノ免許ヲ與フ然リト雖モ理

義ヲ新發明ニハ專賣ヲ許サ、ルナリ
 人民專賣免許ヲ願フ時ハ十五弗ノ手数料ヲ專賣
 免許後所、約ム可シ而シ此ノ手数料ハ他日免許
 ノ成否ニ拘ラス納切ニナルナリ
 專賣免許ヲ取扱フ後人ハ其願フ所ノ品物ニ付テ
 従前發明人ノ有無又ハ其事タル人民ノ為ノニナ
 ルハキヤ否ヲ取調ハシ事トス
 專賣ノ免許狀ヲ受ル時ハ手数料ノ外ニ免許税ト
 シテ廿五弗ヲ納ム可シ
 外國ニ於テ既ニ發明シタル物品又ハ新聞紙或ハ

書籍上ニ明載セシモノハ免許セサルナリ
 專賣免許後所ハ華盛頓府ニ只一箇所アリ其官吏
 ヲ三等ニ分テ其一ヲ上等役所ノ頭取トシ其次ヲ
 中等役所ノ上等調役其次ヲ下等役所ノ下等調役
 トス免許ヲ請フモノハ願書ヲ以テ下等役所ニ出
 タス可シ
 同氏曰其書ヲ云木文役所ノ官吏員數及給料
 ヲ定ム如左
 上等役所事務挂官吏即頭一人給料四千五百元
 同助役一人同 三千元
 中等役所上等調役三人同 三千元

中等役所中等調役 廿二人給料二千五百元宛
 下等役所下等調役 廿一人同 千八百元宛
 同 同 廿一人同 千六百元宛

同氏曰免許後所ハ民部省ノ所管ナリ

○專賣免許願ニ付緊要ナル六件ノ手續アリ則如左

- 第一 願書ノ事
- 第二 發明ノ事ヲ書顯ス事

- 第三 發明家誓ヲナス事
 - 第四 發明品繪圖ノ事
 - 第五 發明品見本及ヒ雛形ノ事
 - 第六 十五弗ノ手数料ヲ出ス事
- 此ノ説キ明シ

第一條願書ノ事

於某地月日呈某氏

何州何郡某所 何某名印

余今般蒸氣釜ノ破裂ヲ防ク為メニ新規ナル良工夫ヲ發明セリ此方法ハ余カ發明以前ニ用ヒラレシモノニハ之レト考ヘタリ故ニ余及ヒ委任ノ名代人ノ專賣ヲナス為メニ

合衆國ノ免許ヲ請フ就テハ都テノ規則ヲ
守リ十五弗ノ手数料ヲモ上納ス因テ此免
許アラランヲ願フ

第二條 書頭シノ事

組立方働キ方用ヒ等ヲ明細ニ付テ器械ノ
發明ノ部分ハ殊更詳ニ縷載スヘシ其他ノ

第三條 誓ヒノ事

發明家自カラ誓文ヲ作リ名印スルナリ然
レニ專賣免許役所ハ華盛頓府一箇所ニ
遠隔地名代人ヲ出府シテ願出ルテ得キ時ハ委任
セシテ代人ヲ以テ願出ルテ得キ時ハ委任
誓文ヲテスニハ其住所ノ下等裁判所役人

第四條 繪圖ノ事

繪圖ハ細密ニ認メ正副二枚ヲ出ス可シ其
一枚ハ厚紙ヲ用ヒ一枚ハ薄紙ニテモ可トス

第五條 手本雛形ノ事

雛形ノ大サハ我曲尺一尺四方ヲ過クハカ
ラズ其物質ハ木或ハ金屬ヲ用ヒ同氏日本ニ
發明家ノ氏名及住所ヲ羅形ニ書キ記シ置
クヘシ又ハ氏名及住所ヲ札ニ付テ氏名ヲ
以テ結ビ付ケ置キ可トス從來用ル所
ノ古キ器械ノ一部ニ付テハ發明ノ
其部分丈ケハ見本ヲ出スヘシ
混合發明ハ其混合セシモノ又混合セサル
質物ヲモ出スヘシ

第六條 手数料ノ事

同氏日本ノ通り
右ノ手續一件リトモ不足スレハ役所ニテハ
免許ヲ與ヘサルノミナラス其取調ヘラモ為サ

又了トス

手本雛形及ヒ繪ニテ顯シ難キ品物ハ口上書ヲ以テ陳述スル了ヲ得ヘシ

○拒願及詐訟ノ事

下等役所ノ調役人發明家ノ願ヲ許サレル時ニ於テハ其由ヲ願主ニ知達ス之ヲ第一番ノ拒ミト稱ス
此時ニ於テ發明家自身或ハ名代人ヲ以テ其事ヲ論議シ明カシ證據ヲ述テ再應願書ヲ以テ免許ヲ

請求スル了ヲ得ヘシ但シ再願ノ時ハ手数料ヲ出スニ及ハス

然ルニ猶ホ拒マレル時ハ發明家自身或ハ名代人ヲ以テ中等役所へ願出ルヲ得ヘシ其時更ニ十弗ノ手数料ヲ出シ而シテ亦タ之ヲ拒マレ發明家不滿足ニ思フ時ハ更ニ又上等役所頭取へ願出ルヲ得ヘシ其時ハ又二十弗ノ手数料ヲ出スヘシ然ルニ猶又拒マレル時ハ發明家自身或ハ名代人ヲ以テ華盛頓府ノ上等裁判所へ訴出ル了ヲ得ヘシ其時ハ廿五弗ノ手数料ヲ出ス了トス

○模様免許ノ事

附 商印或ハ目印札紙ノ事

品物ノ新ラシキ形ヲ或ハ模様ニ付テノ免許ヲ稱シテ模様免許ト稱ス此種類ハ銅或ハ真鍮等ノ鑄物 器械ノ臺煖爐ノ臺板等ノ飾リ 品物ノ縁リ或ハサ、ヘリ 絹更紗毛氈唐紙等ノ上ヘニ模様ヲ摺出シ又織出ス 商印或ハ目印札紙 箱類 玻璃瓶類油繪類人形類 鑄形ノ類 漆具ノ類 家屋門戸等ノ飾リ

是等ノ免許年限ハ納税ノ高ヲ以テ定ム乃チ十弗ノ税ナレハ三年半十五弗ナレハ七年三十弗ナレハ十四年ノ割合ナリ

○免許ヲ他人ニ賣ル事

發明家未タ免許ヲ得サル前又ハ後ニテモ其發明ノ事ヲ他人ニ賣ルトヲ得ヘシ 發明家未タ免許ヲ願出テサル前ニ於テ其發明ノ事ヲ他人ニ賣ル時買受人ヨリ免許ヲ願フニハ其發明家ノ名代人トナリテ必ス發明家ノ印紙誓

書ヲ所持シテ之ヲ證セサルヲ得サルトス
發明家免許濟ノ後ニ於テ免許ヲ他人ニ賣ル時ハ
雙方互ニ約定ヲ取結ヒ必ス其由ヲ役所へ届ケ置
ク可シ

免許ヲ他人ニ賣ルニ付三要件アリ則左ノ如シ

第一新發明ノ事ヲ殘ラス賣與フル事

同氏日專賣ノ權利共ニ
併テ讓ルノ意

第二發明品ノ一ツノ全キ一部分ヲ賣ル事

同氏日專賣品ノ全體ノ
内一個ヲ取分ケ讓ノ意

第三土地ノ區域ヲ定メテ賣ル事

同氏日一州或ハ一郡丈ク
ノ專賣ヲ讓ルノ意

此三件モ巨細ニ役所へ届ケ置クヘシ其所以ハ他
日訴訟起リタル時ノ證據トナルニ因テナリ
免許賣買ノ約定書ニハ必ス公用ノ印紙ヲ貼付ス
ヘキトス

○名代人ノ事

發明家ハ前文六件ノ手續ニ不足ナケレバ他人ニ
名代ヲ託シ願出ルヲ得ヘシ而テ其名代人ニハ必
ス委任状ヲ付與スヘシ

○目論見ノ事

新發明ヲナスニアット雖モ未ク精密ニ至ラサル時ニ於テ發明家ヨリ書付ヲ以テ其事ヲ役所へ豫メ届ケ置クトテ得ソノ目的ハ發明品ノ成就スルマテノ時間ヲ待ツニ在リ之ヲ目論見書ト稱ス此目論見書ヲ出ス時ハ願書並書頭シ及ヒ誓等成規ノ如クシテ十弗ノ手数料ヲ出スヘシ而テ役人ハ之ヲ秘シ役所内ノ秘密ノ記録所ニ藏メ置クトス然ルニ如シ同様ノ發明ヲ願出ル者アレハ役人ハ雙方

ヲ喚出シ其發明セシ遲速確證ヲ紀シ取捌ヲナスヘシ
目論見中ノ期限ハ一年トス然レモ一年中ニ其事成就セサル時ハ一年ツ、再度ノ延期ヲ得ヘシ而テ其都度十弗ノ手数料ヲ出スヘシ
發明家一旦目論見等ヲ出タセシ上ヘハ之ヲ引下ルルヲ得ス然レモ意味ノ増減文字ノ書替ヘ等ハ別紙ニ認テ申立ルハ差支ナシ

○競ヒノ事

專賣免許ノ役所へ既ニ新發明免許願出者アル時
又同一願人アル之ヲ競ヒ支ヘト稱ス
此時役人ハ雙方ノ發明家ヲ喚出シ其發明ノ遲速
ヲ取糺シテ其明證アル方ヘ免許ヲ與フルナリ
今此ニ發明家甲某アリ昨年中某品ノ發明ヲナス
然ルニ疾病等ノ故ヲ以テ今月ヲ未タ免許ヲ願
出テサリシ乙某アリ同シ發明ヲナシ今月以前ニ既
ニ免許ヲ得タリ此時ニ於テ甲某ヨリ願出ツレハ
役人ハ其確證ノ有無ヲ糺シ甲某ハ乙某ニ先タツ
テ發明セシト相違ナキニ於テハ甲某ニモ亦タ免

許ヲ與ノ然レド乙某ノ免許ヲ差止ル非ス甲乙
共ニ免許スルヲ其アリカニ一應出タルトテ其

○專賣免許ヲ破ル事

專賣免許人ノ許シテ得スレテ其品ヲ製造スル
販賣スルヲ及ヒ使用スルヲ禁ム如シ其禁ヲ犯
スモアリテ專賣人ヨリ裁判所へ訴出テ裁判官
此訴ヲ直トスルヤ即チ製造セシ者販賣セシ者及
ヒ使用セシ者ヲ相當ニ所置シ速ニ製造販賣及ヒ
使用ヲ差止メ而テ該三犯者所得ノ益金ヲ通計シ

テ其高三應レ三倍迄ノ罰金ヲ申付ケ之ヲ專賣人ニ償ハシム又該犯者一人別ノ益金ヲ計算シテ償ハシムルコトアリ但レ罰金ノ多少ハ犯罪ノ輕重ニ依テ裁判官之ヲ定ムト雖モ陪審人ヲシテ吟味セシメ而テ益金ノ計算ハ許價人ニ命スルコトス

○再度免許ヲナス事

發明家既ニ免許ヲ得シ後其發明ノ事ニ付尚不充分ノ慮アレハ其趣ヲ役所ニ願出ルコトヲ得ヘシ雖然此事ヲ願出ル時役所ニテ最前ノ免許狀ハ取上

ケ置キ事實取調ノ上改テ再度ノ免許ヲナスヘシ而テ年限ハ最前免許セシ日ヨリ數フルコトナリ如シ再度免許ヲナシ難キ筋アレハ最前ノ免許狀ヲ差戻スノミナリ
此願ヲナスニ都テ手續ハ初願ノ時ノ如クスヘシ而テ更ニ三十弗ノ手数料ヲ出スヘシ
同氏曰再度免許濟時ハ天張廿弗ノ稅ヲ出スルヘシ
○專賣期限ノ事
器械製藥織物類ノ專賣期限ハ總テ十七ケ年ト定

ハルナリ。

十七ヶ年ノ期満ル前へ三ヶ月内ニ期限継キノ願
ヲナシ得ヘシ。雖然他ニ優勝ノ發明品アルカ又ハ
專賣ヲ止ル方人民ノ便益ナルカ又發明家ノ所
得ノ利十分ナルカ否等ノ事實ヲ考察シ期限継キ
ノ許シヲ與ルハ役人ノ公議ニ在ルナリ

此願ヲナス時ハ五十弗ノ手数料ヲ出シ免許濟ノ
時又五十弗ノ税ヲ出スヘシ。

○一般說キ明シ再々

第一 役所ニ於テ諸願ノ取調ニ付混雜ヲ防ク為

メ兼テ順序ヲ定メ置クハ

ハ甲ノ日織物ハ乙ノ日ニ檢査ヲナス如シ

故ニ数口ノ願書一時ニ出ルトキ定メノ日

限ニ依リ遲速アリテ願出ノ先後ニ拘ラ

ヌナリ

第二 發明家出願以前ニ死去スル時ハ相續人自

カラ誓ヲナシテ願出ルヲ得ヘシ

第三 發明家ノ許シヲ受ケスレテ發明家ノ名ヲ

他ノ物品ニ誌シ或ハ全ク無免許ノモノニ

免許ノ事ヲ誌ス者アレハ百弗ノ罰金ヲ取
立ヘレ而テ百弗ノ内五十弗ハ役所ニ収メ
五十弗ハ發明家ニ價^償ヲナリ

第四

發明家免許濟ノ上ハ其物品へ免許ヲ得レ
年月日ヲ必ス誌レ置ク^トトス

第五

發明家ヨリ納金ヲ役所へ送ル時途中ニテ
紛失スレハ送主ノ損亡トス然レモ發明家
ノ願ニ依リ役所ヨリ送ル所ノ金ハ途中ニ
テ紛失スルトモ役所ノ損失ニハナラヌ^ト
ナリ

同氏曰役所ヨリ金ヲ送ルトハ距今三
十年前ハ專賣ノ願アリテ之ヲ免許セ
サル時ハ納金ノ三分ノ二ヲ願人ニ戻
ス^トアリシト云

第六

二人或ハ三四人同時ニ新發明ヲナス時ハ
共ニ免許ヲ得ヘシト雖モ一人別ニ免許ハ
受ケ難シ一紙連名ニテ願出スヘシ仍テ免
許状モ一紙連名ニテ出ツル^トナリ
此ニ人アリ新發明ヲナスト雖モ既ニ其事
ヲ發明セシモノ、アルヤ否ヲ知ラン為メ
役所へ書付ヲ出シ之ヲ伺フトモ役人ハ決
テ採用セサル^トトス且ツ平常ニテモ專賣

願ノ事ハ漏洩セサルノ規定ナリ

リヨンレベル氏萬國高法書ノ内鈔出
外國ニテ新發明ヲナシタル物品ニ付其發明家ノ
受得タル專賣免許ノ年限未タ終ラサル間ハ魯西
亞中ニテモ專賣免許ヲ願フコトヲ得ヘシ然レモ年
限ハ右發明家ノ受得タル年限ニ超エルトヲ得ス
外國ニテ專賣免許ヲケレモ既ニ外國中ニハ一般
ニ人々ノ知ル所且ツ用エル所ノ新發明物品ニ付
魯西亞中ニテ專賣免許ヲ與ルコトアリ此ハ只魯西
亞政府格段ノ恩典ニ依ルモノナリトス
外國ノ發明物品ニ付テ與ヘル所ノ專賣免許ハ魯

「ルブルハ我カ
七十二爰程ニ
當ル」

國內ニテ發明ノ物品ニ付與ヘル免許ト同シ權ヲ
持スルコトナリ

魯國ニテ專賣免許ノ年限ハ三年五年十年ト定ム
然レモ外國ノ發明ニ付テノ免許年限ハ六ケ年ヲ
限リトス

魯國ニテ專賣免許ノ年限ハ總テ滿限ニ至ルモ延
期ハ得難キトトス

魯國內ノ發明物品ニ付テノ專賣免許稅ハ三年五
年十年ト分テ定ム而モ三年ハ九十ルブル五
年ハ百五十ルブル十年ハ四百五十ルブルヲ拂フ

ヘシ

外國ノ發明ニ付テノ免許稅ハ一年間ハ六十ルブ
ル二年ハ百二十ルブル三年ハ百八十ルブル四年
ハ三百ルブル六年ハ三百六十ルブルヲ拂フヘシ

列帝大威名何處莫不聞
發明ニ付テノ專賣免許ノ年限ハ三年五年十年ト定ム
然レモ外國ノ發明ニ付テノ免許年限ハ六ケ年ヲ限リトス
魯國內ノ發明物品ニ付テノ專賣免許稅ハ三年五年十年ト分テ定ム而モ三年ハ九十ルブル五年ハ百五十ルブル十年ハ四百五十ルブルヲ拂フ

ルブルハ我カ
七十二爰程ニ
當ル

大正十一年四月
大隈侯爵寄附

明治七年六月二十二日上申七月四日決裁 日下部

大臣 三條 島洋 議長 伊地知

參議 大久保 寺嶋 勝 內務課 高崎 宮嶋 牟田 增田

第五号

別命大藏省伺鹿兒島縣貫屬士族水鉅青製法
發明ニ付專賣特許ノ規則別冊取調涉發行儀
致上申外慶右ハ暫ク涉見合ノ旨涉決裁相成
ニ付テハ別命伺ノ趣ハ左案ノ通涉指令相成可
然存任仍テ前議書類相副此段再應上陳也

涉指令案

大
百三十九号

左院

已
録
案

專賣特許規則ノ儀ハ詮議ノ次第有之當分
見合ヒ各条一昨午申第百五号公布ノ通可
相心得事

但別紙鹿兒島縣伺書類ハ工部省へ可相
廻事

工部省へ津達案

別紙大藏省伺へ朱書ノ通及指令各条一昨午
申第百五号公布ニ據リ取計可申此旨相達
事

明治七年五月十四日上申日九日決裁

日下部

大臣 三條

議長 伊地知

参議 勝

内務課 高崎 宮崎
年田 信田

別紙大藏省上甲鹿兒島縣實屬士族高橋良顯
外兩人水紺音製法發明ニ付專賣免許規則取
調伺出ノ趣遂審案ハ屢具規則未夕宜ヲ盡サレ
所エレアリ各甘醇酌増減別冊ノ通取調々条法確
定相成度折專賣免許ノ儀ハ百工ヲ振起ニ世ノ
便益ヲ益スノ一大良法ニシテナカルヘカラサルモ

大
第百三十九号
左院

夕(北)歐米諸別於テモ此法一度行ハレ民智益進ミ
 工業愈勵ミ國民ノ洪益因テ以テ生ス實ニ具大効
 アル固ヨリ矢ヲ待タサル儀ニ有之今日地ノ情形ヲ視ルニ
 人智ノ開進習俗ノ變遷ニ隨テ一般求需ノ器物自
 カラ其趣ヲ異ニシ昨日ノ名器モ今日ノ贅物トナリ日常
 必需ノ器物ニ至ルマテ十ニ八九之ヲ外輸ニ仰テ内地産
 出ノモノナシ之ニ依テ外輸日ニ盛ニ内地ノ産物月ニ衰微ヲ
 加ヘ工業益衰ヘ民産益究ス是レ時勢ノ變遷止ムヲ
 得サルノ勢ナリト云モ此時ニ當テ政府タルモノ勢ヲ我人民
 ノ智巧ヲ進メ我人民ノ工業ヲ振起シテ我内地ハ言フニ

及ハス之ヲ海外ニ輸出シ國民ノ洪益ヲ與スノ一大良法
 ヲ設ケスニハアルヘカラス是レ具良法ハ則テ專賣特許ノ
 法ナリ此法一タヒ津發行アラハ實際ニ於テ一大効功アル
 事疑ヲ容レス何トナレハ内地人民智巧未タ進マスト云モ中
 ニハ困智勉行夜明ノモノアリテ便益要用ノ物ヲ製出スル
 一ナキニモアラス只ソノ專賣ノ權ナク專賣ノ利ナク終ニ資
 カヲ失ヒ具業ヲ盛大ニシテ世間ノ便益ヲ増スニ至ラ
 サルノミナらず此法一タヒ立タハ此ニタル貧者モ困
 智勉力以テ世ノ要用便益ノモノヲ製出シ之ヲ盛大ニ
 シテ具利ヲナスヲ得ニコレハ民ノ産ヲ富マシ一ハ世ノ便益

ヲ増スノ一大良法ニシテ現今最一ノ急務ト存ル仍テ歐
米諸別ノ專賣規則ヲ参酌シ時勢ノ適度ヲ考ヘ傳
習專賣規則ヲモ附加シ別冊ノ通取調々儀ニ付一日モ
早ク法發行ヲ成ル様致シ度併シ規則施行ノ儀ハ
内務省罰則ノ儀ハ司法省ヘ一應法下問ノ上ニテ公
布成度存ル依之諸案調査上陳ル也

内布告案

凡百工業ヲ振起シ國家人民ノ便益ヲ増シカ為メ
今般別冊ノ通專賣特許規則相設ル條此旨
布告事

冲達案

内務省

專賣特許規則別冊ノ通取調々條今後出願
ノ者ハ規則ニ照準取調ヘ特許ノ可否共其省見
込相添可付此旨相達事

但為テ大藏省ヨリ何出有之ハ鹿兒島縣士族
水紺青製法專賣願ノ儀同省ヨリ迴達次第
規則ニ照準取計可申事

同

大藏省

伺ノ趣專賣特許規則第何号ヲ以布告ル條
別紙願書ハ内務省一送致可致事

付ケ紙

發明勅定者ニ是ノ間ハ繁法ノ為ニ害
アラニテ恐ル依テ今暫ク見合工部ヨリ曾テ
伺出タル都合可^三知^三哉^三
三條 島津 若念 寺島

許金審

專賣特許規則

新ニ物品及ニ機械ヲ製造シ又ハ在来ノ器具新
發明ヲ成シ國家ノ利益ヲ興シ人民ノ便用ヲ増
スノ類ハ其功勞ニ報酬スル為メ年限ヲ定專賣
特許状ヲ與フ仍テ其規則ヲ設ル左ノ如シ

第一條

發明家專賣特許ヲ願フニハ先ツ其發明物品ノ
要趣大意ヲ書面ニ誌メ内務省ヘ專賣特許ヲ願
出^三後旨其管轄、、廳ヘ申立其廳ノ添書ヲ受

巳 兼 奏

左に要件ヲ整へ内務省へ願出スヘキ事

但其 廳ニ於テハ一應取調第四號書式ノ

通添書ヲ渡スヘシ

一願書 第一号書式ノ通

一證人 本人願書へ連署スヘシ

一方法書 第二号書式ノ通

一誓書 第三号書式ノ通

一繪圖及手本 繪圖ハ詳細密ニ寫シ機關ノ箇所ハイロハ或ハ一二三

ノ番号ヲ記シ最モ見易キヲ要ス可シ○手本
雜形ハ凡三式ヲ限リ番号等詳記スルヲ要ス
藥品或ハ混合ノ類ハ原質物共出ス可シ○
現物ヲ出シ難キモノハ寫真ニナシ或ハ彩画

トナシ差出スモ
若シカラス

一手數料五圓

第二條

發明家疾病或ハ其他ノ事故アリテ自身出願シ
難キ時ハ名代人ヲ差出スモ若シカラスト雖願
書誓書ニハ必ス自身調印ヲナス可シ且ツ名代
人へハ委任狀ヲ渡シオクヘキ事

第三條

專賣特許ヲ與フルニハ保證トメ第五号雜形之
通許狀ヲ發明家ニ渡ス可シ本人ハ第六号書

式、通受書ヲ差出スヘキ事

第四條

發明一人ニ非スノ數名同心協力發明セシ物品ノ專賣願ハ一紙連名ニテ願出ヘシ一種ノ物品ヲ數名ニ分チ一人別ノ特許ハ與ヘサル

第五條

同種ノ發明ヲ兩人同時ニ願出ル時ハ其發明ノ遲速且ツ其物品ノ巧拙利否等ニ依リ一方又ハ雙方ヘ特許ヲ與フヘキ事

第六條

專賣特許ノ年程ハ十四年ヲ以テ定限トス此ノ特許稅貳拾五圓ヲ納ムヘキ事

但十四年間ノ特許ヲ一時願ヲ定則トスト雖モ又之ヲ三期ニ分チ初度ハ三年再度ハ四年最後ハ七年トシ或ハ二期ニ分チ初度七年再度七年ト追願スルモ本人便宜ノ為メ之ヲ許スヘシ且ツ其納稅モ亦之ニ準シ三期ノ追願初度ハ五圓再度ハ八圓最後ハ十貳圓又二期ノ願ハ初十圓後十五圓ト分チ納ムヘシ

第七條

發明家ハ專賣物品ヘハ必ス偽造豫防ノ為ノ本
人製作ノ確證ヲ查シ且ツ特許ヲ受ケシ年月日
ヲモ誌シ置クヘキ事

但一ヶ月間新聞紙等ニ載セ廣告スヘシ

第八條

專賣特許ヲ與ヘタル節ハ内務省ヨリ發明家ノ
住所姓名及テ物品ノ便益功用ヲ詳記シ一般ヘ
公布スヘキ事

但新聞紙ヲ以テ公布スルコト
ルヘシ

第九條

專賣特許狀ヲ他人ニ賣ルヲ得ヘシト雖モ必ス

約定書寫相添管轄、廳ヘ願出其廳ヨリ内
務省ヘ申請スヘキ事

但賣買願ノ節ハ手数料トメ雙方ヨリ五圓ツ
、相納ムヘシ

第十條

發明家其發明物ヲ他人ニ教授スルハ勝手タリ
ト雖モ傳習人ノ姓名住所等其時々管轄廳ヘ届
出其廳ヨリ内務省ヘ届置ヘキ事

第十一條

發明家出願以前ニ死去スレハ其相續人ヨリ願

出_レルヲ得ヘキ事

但願書ハ第七号誓書ハ第八号書式ノ通

第十二條

他人ノ特許ヲ得タル物品ヲ偽造シ又ハ發明特許者ノ許ヲ受ケスメ發明家ノ名ヲ他ノ物品ヘ誌ス者ハ其物品及ヒ器械不殘取上クヘシ若シ既ニ販賣スル者ハ其實價ヲ積算メ取立其内所得ノ益金ヲ計算シ之ヲ發明特許者與ヘ以テ受ル所ノ損失ヲ償ハシムヘキ事

第十三條

他人ノ發明ヲ偷テ已ノ發明ト偽リ或ハ特許ナキ物品ニ特許ノ字ヲ誌ス者ハ二十圓ヨリ少カラス五十圓ヨリ多カラサル罰金ヲ取立ヘキ事

第一号 願書々式

願書ノ事

私儀今度何 <small>器械カ 器具カ</small> 新發明仕實地
功用試験ヲ遂ケ候處便益可相
成ハ勿論御國內於テ未タ同様
ノ發明無之ト存候間御調査ノ

上專賣御免許被成下度仍テ御
規則ノ通書類並上納金相添此
段奉願候也

年月日

何縣管下
何州何郡何村
何邑何番地
何寄番
發明主
何 誰 印

内務省官何某殿
戸長與 印

第二号 方法書々式

方法書

- 一 發明品種類名称
- 一 器械組立方云々
- 一 同働キ方云々
- 一 同用ヒ方云々
- 右發明ノ原由云々

年月日

何縣管下
何州何郡何村
何 誰 印

第三号 誓書々式

誓書ノ事

已 録 案

私儀何物品新發明ノ儀ハ某年
 某月ヨリ發意致シ多少ノ工夫
 ラ盡シ功用試驗ノ上遂ニ成功
 ニ及ヒ候儀相違無之決ノ他人
 ノ工夫ヲ偷ニ以テ他ノ指授ヲ
 受ケ候儀等一切無之候仍テ誓
 文ヲ以テ其偽ナキヲ證候也

年月日

何之誰印

第四号

管轄廳添書々式

別紙當^縣管下何區何町何ノ誰
 何物品新發明候^府專賣免許ノ
 儀出願致シ度旨申出候ニ付一
 應取調候處便益ノ儀ト被存候
 ニ付出願ノ儀不届則チ此副書
 ラ本人一^下付致候也

年月日

何^府縣令何某

内務卿何某殿

第五号

特許状雛形

第何号

特許
第一等 專賣特許

何縣管下

何州何縣何町
何之誰

何物品

機械
器具

新規發明候ニ付何

年間

明治何年何月ヨリ
明治何年何月マテ

專賣令

特許者也

年月日

内務省

印

第六号

受書ニ式

御受書

私儀何物品新發明候ニ付何年

間明治何年何月ヨリ
同何年何月マテ 專賣特許

状御下ニ渡シ被下置正ニ拜受

仕候就ラハ御規則ノ條々堅ク

相守可申ハ勿論御國益相成候

様勉業可仕候此段御受如此候

也

年月日

何之誰印

內務省

御中

第七号

發明家ノ相續人願書ニ式

願書ノ事

私以誰儀何物品新規發明仕候
處某年月日病死致候ニ付右發
明物品ノ功用等尚試驗ヲ遂

候處便益可相成勿論御國內ニ
於テ未夕同様ノ發明無之ト奉
存候間御調査ノ上專賣御免許
私ニ被成下度仍テ御規則ノ通
リ書類并上納金相添此段奉願
候也

年月日

發明者何之誰印

證人 證人印

內務省 何某殿

長興印

第八号 同誓書々式

誓書ノ事

私父誰儀何物品新發明ノ儀ハ
 某年某月ヨリ發意致シ多少ノ
 工夫ヲ盡シ功用試験ノ上遂ニ
 成功ニ及候處某年月日病死致
 候ニ付私儀其遺業ヲ継キ候儀
 ニテ他人ノ工夫ヲ偷ニ他ノ指
 授ヲ受候儀一切無之候仍テ誓
 文ヲ以テ偽ナキヲ證候也

年月日

發明家親類何ノ誰印

傳習專賣規則

百業ヲ振起シ大ニ國家人民ノ便益ヲ
 増サンカ為持ニ傳習專賣ヲ許ス其規
 則左ノ通

一 外國製造ノ物品器械等ヲ傳習製造シ國家人
 民ノ便益ヲ増ス者ハ詮議ノ上專賣特許ヲ與
 フトアルヘシ

一 專賣特許ノ年程ハ六ヶ年ヨリ多カラサルハ
 シ
 一 專賣特許税ハ十五圓ヲ納ムヘシ
 一 專賣特許ノ年限中ハ本條發明專賣ト同一ノ
 權アルヘシ
 一 出願ノ手續并手数料等ハ本條發明專賣規則
 ノ通タルヘシ只證人ヲ立誓書ヲ出ス等ノ一
 ニ不及

特許規則ノ儀ニ付申上

武井 野

鹿兒島縣貴屬士族高橋良頭外西人水紺青製法
 發明ニ付專賣御許可ノ儀本年三月中相伺候處
 一 般特許ノ規則取調申上候様先般御達ノ上右
 伺書御下々有之候ニ付別紙新發明特許ノ儀
 御布告并規則葉トモ相添御下々ノ伺書返進此
 段申上候也

明治六年十二月廿四日 大藏卿大隈重信

右大臣岩倉具視殿

大
第百五拾七号

ナリ
七十号
巴 桑 葉

公布業

自今新ニ物品ヲ製造シ機械ヲ發明シテ國家
 ノ利益ヲ起シ候類發明特許狀ヲ與ヘテ其本
 人ニ專賣可差許條別紙規則ニ照準其地方廳
 ノ添書ヲ以主務ノ省ヘ伺出層ハハ器械ノ發明ハ
工部省物品ハ大藏省
 且税金ノ儀ハ其管轄廳ヘ可相納此旨布告候
 事

年月日

右規則草案并鹿兒島縣士族願書類略之